

□ ラウンドアバウトへの取り組み



欧米などで普及している信号機のない環状交差点「ラウンドアバウト」。従来、日本における円形の交差点は、T字路の連続とみなされ、一方通行や徐行などの複数の標識で規制されてきました。

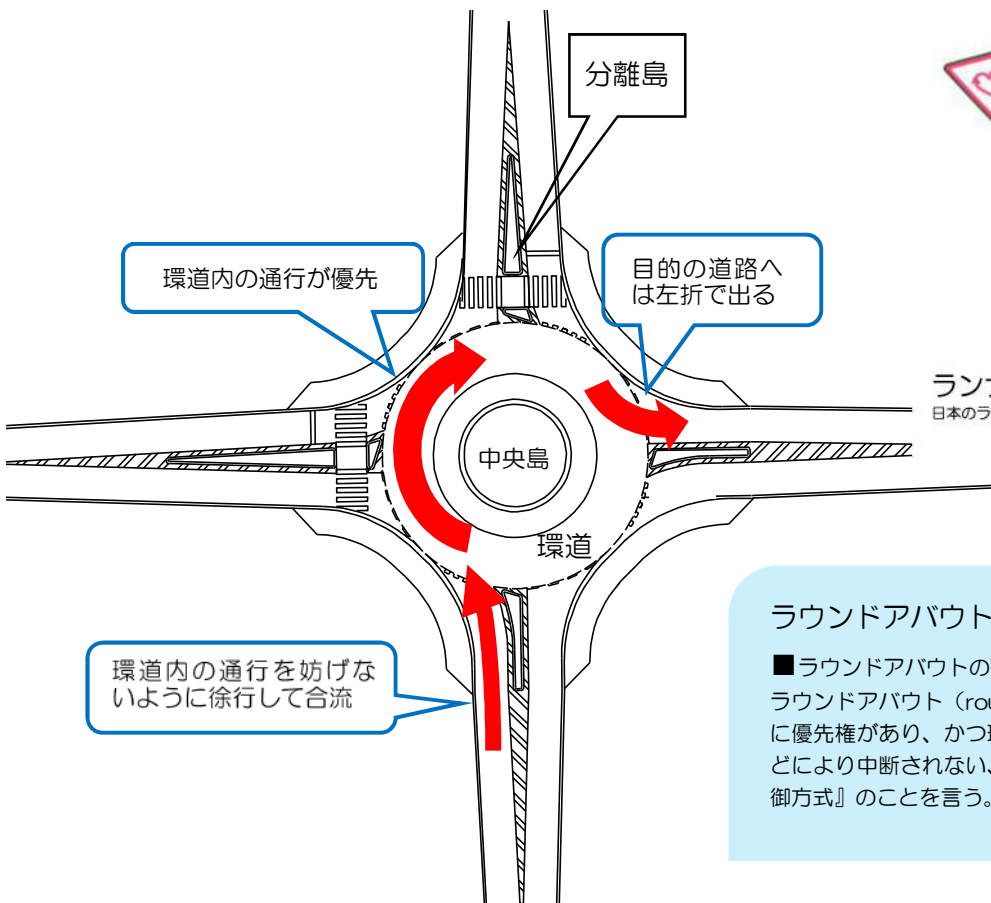
平成 25 年 6 月 14 日の改正道路交通法により、これらのうちの一部が環状交差点として定義され、平成 26 年 9 月 1 日の施行により、全国 15 箇所で開催が開始されました。

この施行に伴い、左図に示すような新しい標識等が設置されました。「ラウンドアバウト」とはどのような交差点なのでしょう。

1 ラウンドアバウト(環状交差点)とは

「ラウンドアバウト」とは円形の交差点で、通常 3 本以上の道路を円形のスペースを介して接続させたもので、円形のスペースの中央には中央島があります。車両はこの中央島の周りの環状道路（環道）を右回り（時計回り）の一方通行で通行します。

環道内の車両が優先で、交差点に入る車両は環道内の交通を妨げないように徐行して流入するのがルールです。目的の道路へ出るときは左折ウインカーを出して左折します。



ランナバちゃん
日本のラウンドアバウト普及のためのマスコットキャラクター
イラストデザイン:春アキ氏

ラウンドアバウト（環状交差）の定義

■ラウンドアバウトの計画・設計ガイド（案）

ラウンドアバウト（roundabout）とは、『環道交通流に優先権があり、かつ環道交通流は信号機や一時停止などにより中断されない、円形の平面交差点の一方通行制御方式』のことを言う。

（一社）交通工学研究会

2 ラウンドアバウトのメリット

ラウンドアバウトのメリット

- 安全性:**通行車両の速度低下や交錯箇所減少にともない重大事故が減少する
通行車両の速度低下及び分離島を設けることにより1回で渡る横断距離が短く、かつ一方通行の確認で済むため歩行者の安全性が向上する
- 円滑性:**信号による停止の解消や多岐交差点の制御も可能となり無駄な待ち時間の解消につながる
- 環境性:**無駄な価値時間の解消や信号消費電力不要によりCO₂の排出縮減や騒音低減の効果が期待でき、自然環境、住環境に寄与する
- 経済性:**信号機が不要になることで設置費・維持管理費のコスト縮減が図れる
- 自立性:**地震等による停電時でも混乱なく交通処理が可能となり、災害時の対応力が向上する

ラウンドアバウト（環状交差点）は、上記のメリットにもある「災害時の対応力の向上」に関して、東日本大震災後注目を集めました。大規模地震等多くの自然災害に見舞われている昨今、普及が見込めることから一律の規制が必要として法改正が行われました。『警察庁の幹部は「道路を管理する自治体などと協力し、必要な箇所に普及させたい」としている。』との新聞報道（毎日新聞 2014年8月31日）もあり、交通管理者としても普及に前向きなようです。

3 セントラルコンサルタントの取り組み

多くのメリットがあるラウンドアバウトですが、どこでも適用すれば効果が上がるというわけではありません。セントラルコンサルタント株式会社は、社内で「ラウンドアバウト検討会」を設立し、技術の向上に努めております。

また、公益財団法人国際交通安全学会（IATSS）の調査研究プロジェクトにオブザーバーとして参画し、ラウンドアバウトの調査研究・計画・設計に関する技術的支援や適切な普及促進活動に協力しております。

適地の選定や設計など「ラウンドアバウト」に関するご相談、ご用命がございましたら、ぜひ弊社営業担当者にご連絡いただくか、ホームページよりお問い合わせいただけますようお願いいたします。



社内「ラウンドアバウト検討会」講習会の様子



セントラルコンサルタント株式会社

<http://www.central-con.co.jp>